



南 柯 夢
 笠屋三勝赤根半七
 節操全傳
 第三卷
 編者曲亭畫圃北齋
 新研策子



特別
 ~13
 3148
 3



13
3148
3

三七全傳南柯夢卷之三

東都

曲亭馬琴編次



臥房の胡越

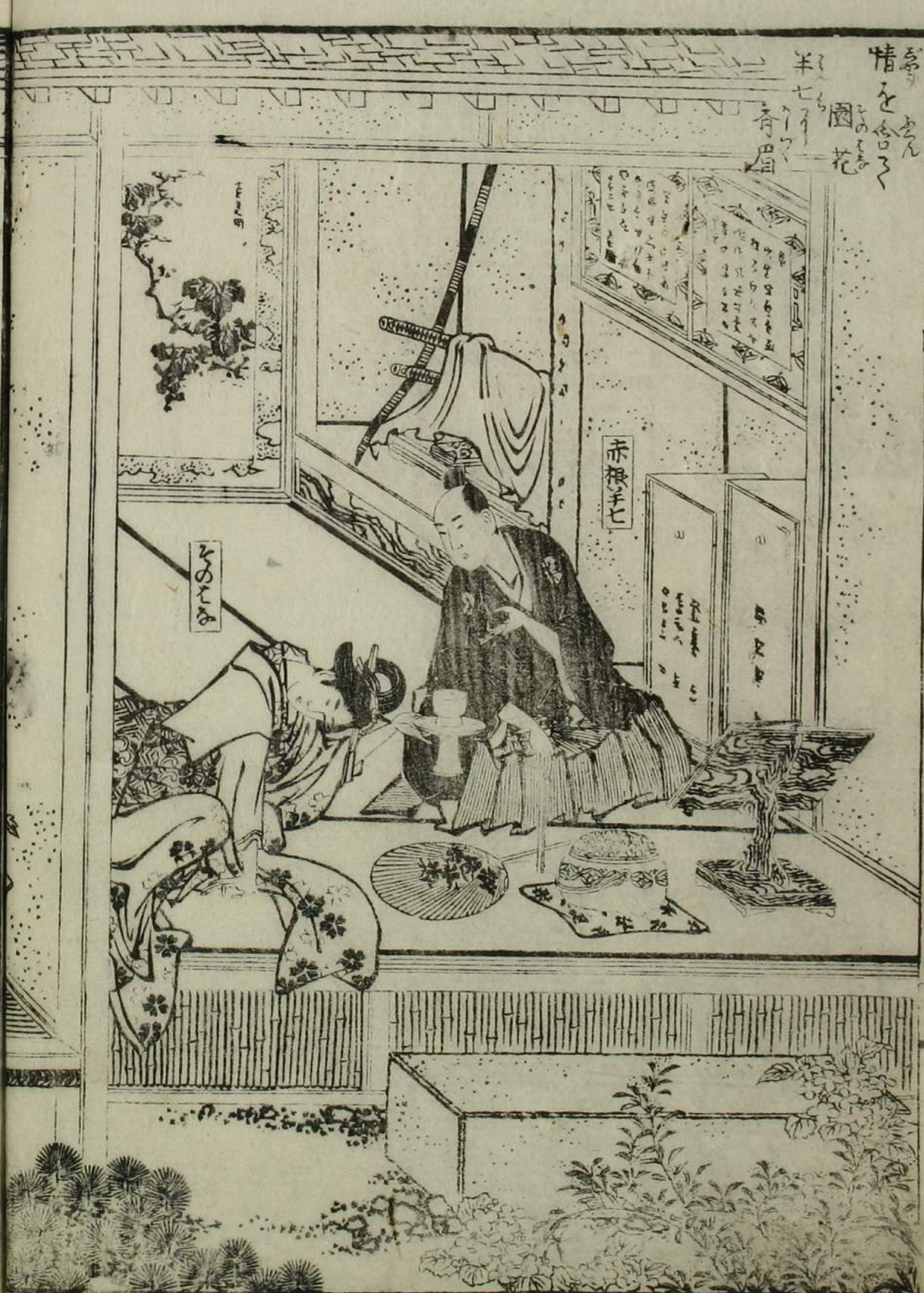
光陰矢の如く。又梭の如く。秋去春来たつ。蟻松典膳が女児園花の既よ
 十五才もどあけりける。父の典膳の豫より赤根半六が一子半七を女児目よす
 たる準備のをり。主君統井順昭をり。彼親子がのを吹奉り
 ある日又より久す。羊六五條の村主を兼つて。又羊露むり。も私
 り加之児子半七の文武の才藝人よ絶たり。僕日末との奉動をり
 小道習より使れと。どうるべりの發夫俊徳を明し。能を奉。不能を
 拜あふの君のそりあり。どうれども長流松横つ。渡すのあり
 も又燕石よかまらん。賢を薦る。愚心臣か微忠て用ると用ひぬる

と。尊慮よりさるるべうりや。と言語を場へさへおぼせぬ。順昭れを諸を
ひく。すあいら守亦よ五條の縣守を兼は。新よ羊七を口許して嫡子よ推を
の通習もぞ召使れり。典儀見親負の汝法をりり。彼親子を汲引す。一
ども。羊七がむごよ。怜悧く。忠孝拔群あるゆゑ違ひ。その為体をもんこ
老臣もられがたよ。妻主君もられ。對して容を改るとまわり。さるるよつて
羊七の。後もろく。近臣の上よす。職祿忽比父よ超たり。続井の家業
まうの中。文武の道よむを委ね。忠信を二つ。の。身倉二席。夫妻春
と赤根羊七との。なえ。肩をけり。あつ。よ羊七の。今。茲。す。千。や
ろり。その年紀をり。論むると。身倉も。孫。り。と。む。あ。り。の。れ
を称讚する。り。と。ど。す。その年の終。蟻松赤根の両臣。その子の婚
縁。主君。願ひ。あり。明春園花を嫁ら。て。秦晋の好を締んと。修。

媒酌の男と。うら。込。送。との用意を。い。く。く。そのと。羊六の。か。子。と
あ。り。招。死。の。あ。う。蟻松氏。の。か。親。子。の。思。入。あり。既。よ。その。蔭。を。蒙。る。と
久。備。彼。人。の。吹。奉。よ。う。べ。の。れ。も。山。見。も。村。果。も。ん。れ。よ。秦
也。此。度。最。愛。の。女。見。を。り。身。よ。妻。と。ん。と。な。り。今。日。殊。さ。う
吉日。あれ。双方。の。願。書。を。上。る。よ。と。の。う。を。げ。え。ち。ん。と。う。ひ。ね。修。び
あ。う。と。ら。め。羊。七。同。し。も。ろ。く。父。の。顔。を。う。ら。瞻。望。仰。あ。ゆ。と。も。某。ひ。く
母。の。遺。言。よ。う。ろ。く。お。さん。と。城。日。縁。を。結。び。う。と。彼。不。幸。よ。て。猛。獸。小。徳。去
ら。う。あ。う。り。と。い。く。も。今。よ。信。死。を。や。め。ん。万。一。つ。も。彼。女。子。思。あ。く。と。世
あ。う。母。の。遺。言。よ。信。る。の。と。う。く。彼。對。して。不。義。あり。不。信。の。男。子。二十
み。く。室。め。り。と。い。く。妻。を。娶。る。ゆ。え。と。う。く。送。う。べ。く。く。ち。ひ。せ。ら。し。こ。後。小
回。答。り。あ。る。べ。う。社。と。い。ひ。も。果。ぶ。る。よ。羊。六。忽。比。氣。を。變。く。え。た。る。が。よ。

のむ 伸して終の裾を引とめぬ。憤の甚しくれも家の力をあはせんとあれは。
 子守あやめあはれ。こゝろに諫め、聴かざれば、啼哭して従へり。奉文あり。此の
 用意の隨ふてありあへ。固辞ゆぐ。固辞ゆぐ。とてさうとふ。す六やう
 気をもむ。わが。すまはれ。こゝろに仔細なるが。おの幸福なれ。さういふ。
 汝日未の怜物よ似せおむ。うのり。さういふ。おの幸福なれ。さういふ。
 いよ婚姻整ひるべ。夫婦睦して。男が姑よ愛せられ。身身の皆身を踏み
 殺して。うのり。さういふ。おの幸福なれ。さういふ。
 大よ致す。おのり。さういふ。おの幸福なれ。さういふ。
 その年の終り。双方故なく。主君の許を稟。婚姻の正月の中旬と定
 める。さういふ。おのり。さういふ。おの幸福なれ。さういふ。
 塗ら。時、蔭の面、新よ。紙、窓を貼る。さういふ。おのり。さういふ。

の目をむ。いとい。暮ら。又、蟻ねが。おのり。さういふ。おの幸福なれ。さういふ。
 金を貰ふ。さういふ。おのり。さういふ。おの幸福なれ。さういふ。
 のち。め。さういふ。おのり。さういふ。おの幸福なれ。さういふ。
 婚姻の日。さういふ。おのり。さういふ。おの幸福なれ。さういふ。
 婦人。三界。さういふ。おのり。さういふ。おの幸福なれ。さういふ。
 長業。順。さういふ。おのり。さういふ。おの幸福なれ。さういふ。
 され。初。さういふ。おのり。さういふ。おの幸福なれ。さういふ。
 三。従。さういふ。おのり。さういふ。おの幸福なれ。さういふ。
 威。を。さういふ。おのり。さういふ。おの幸福なれ。さういふ。
 化。を。さういふ。おのり。さういふ。おの幸福なれ。さういふ。
 さ。を。さういふ。おのり。さういふ。おの幸福なれ。さういふ。



情を合ふ
 花
 羊七
 音眉

南木豊卷之三

赤根手

音眉

三

暗をえんとあざと。こりこり又一下す。強顔もやとあつぐ。活と殺とま
 め。罵打るるうり苦くけり。夫婦の縁のし雲も。神の結ぶとめ
 とどむぐ。ゆめのめとある。流毒の鍋のうづめと結ぶも果ね縁のあて
 とも。吉備の中山まうぐ。あぢ海の鯛まうぐ。浮らるる意ひとま
 自入女西夫よ見とま。と稚れより論られ。又稚れより親と親と。こり小
 詩り。嬪夫といふ人さくちりてまゐる。むつたまゐるあけ。打も懲りも
 こめつち。あけまうぐ。物のしひひく。推辞がく。と娶ぬと。豫さるむむ
 とうと花の葉よ道をとどま。あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけま
 中み致。始るととと恨も。あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけま
 のからぬ夜間もま。とあけまうぐ。化野の雨路と消ぬとも。二言の怨とあけ
 とらあても。あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけま

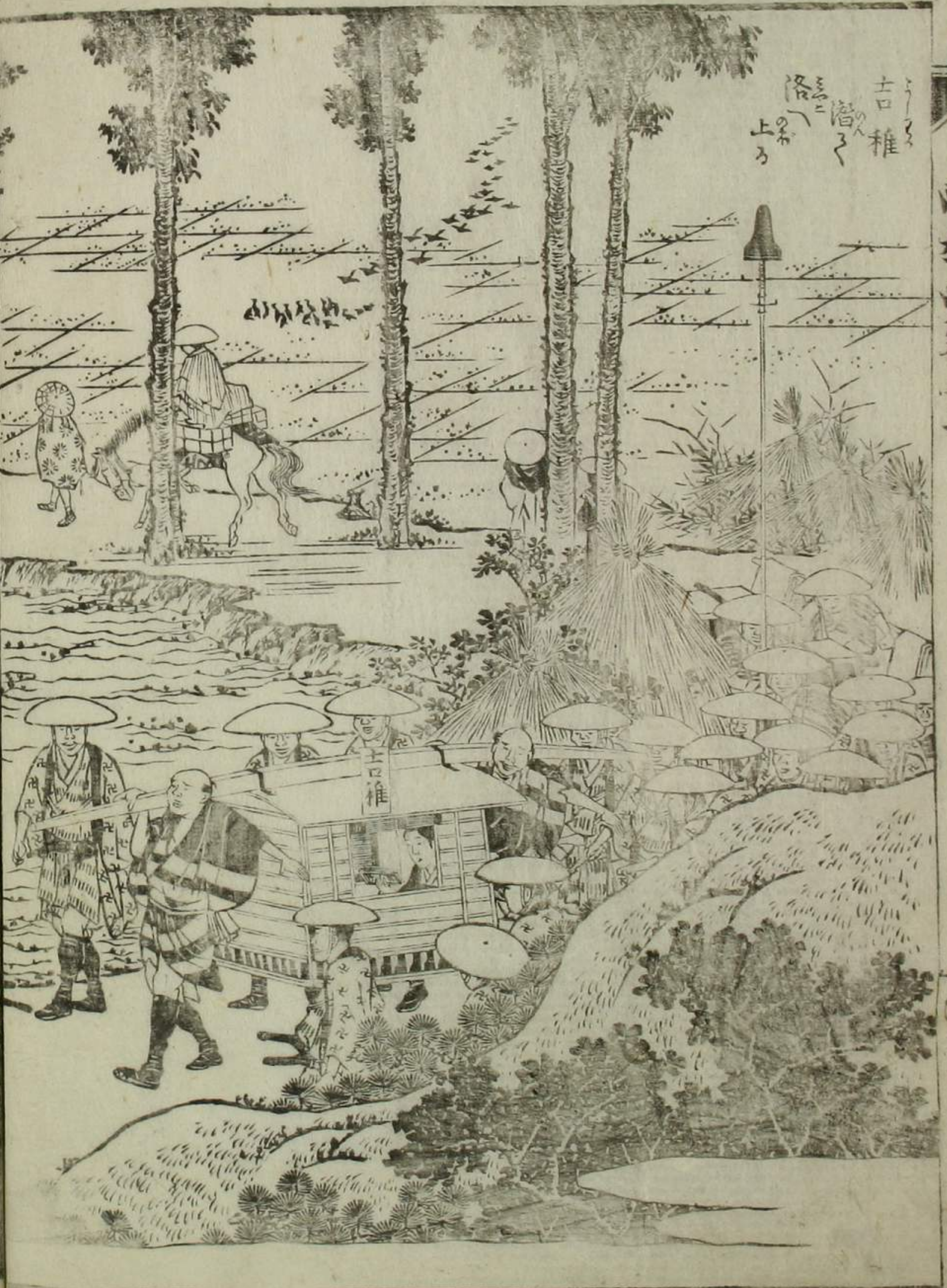
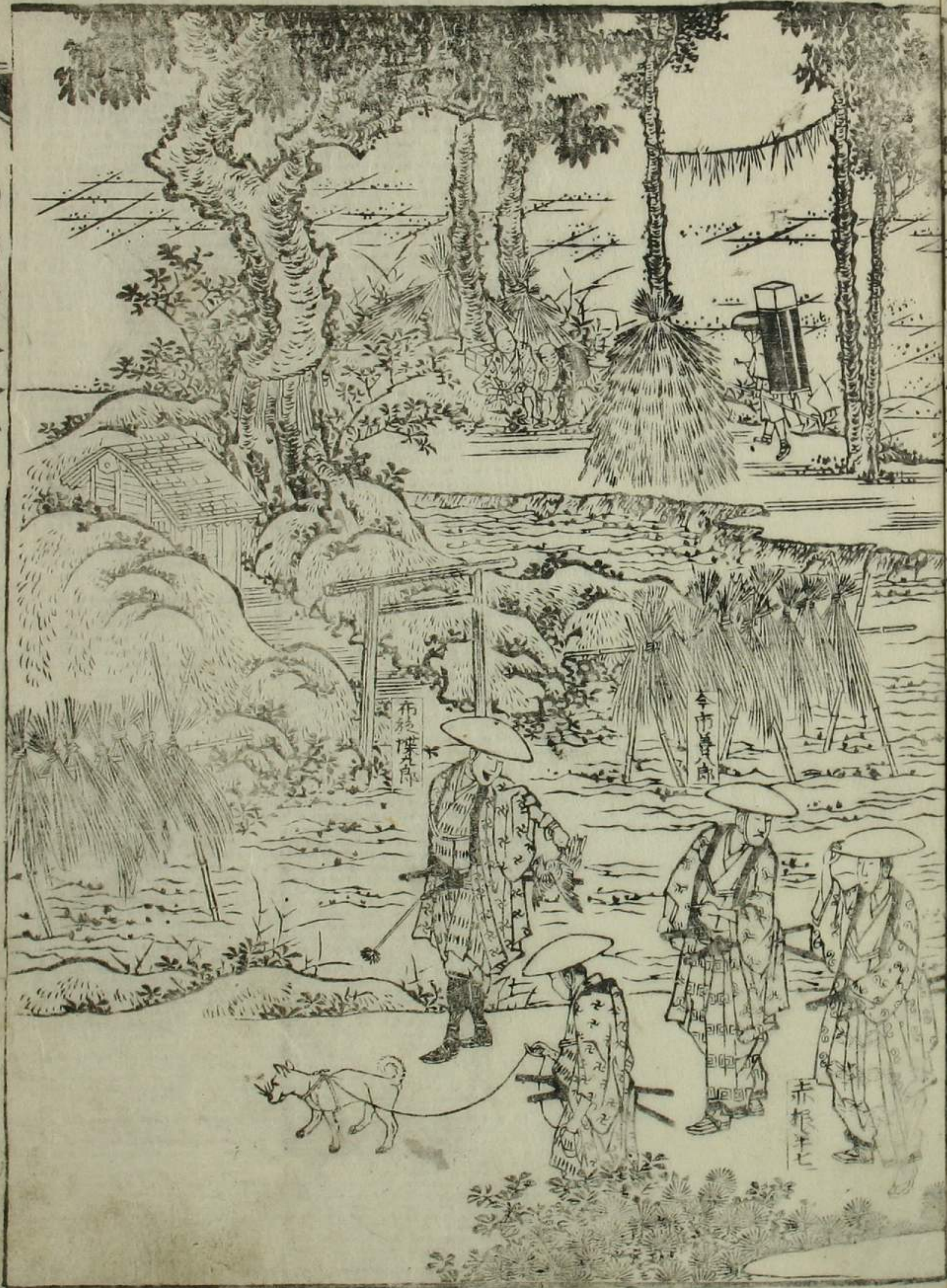
あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけま
 けえね。恨もあけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけま
 あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけま
 とあけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけま
 るとあけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけま
 り。あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけま
 小親を夫りぬ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけま
 んとあけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけま
 とあけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけま
 とあけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけまうぐ。あけま

女児が誠心をばさす思ふよ忍びれど一声洩らば咳よひひする人ありとこ
く羊七も園花も猛り秋を改まどと格る侯と後顔を給らばとんづら
りりりりりり。

華條の僑居

浩如のあつと羊六、奈良久り退れ未き。出居の方る伊豫簾を掲ぐる
園花が母君のつれのねも訪せあひし。未七のあどと。中も迎るとりあふ敷
浪の気まをえんらと。念念天く。いさふ身も只今よりいふ。習も女児
もいさふさつらむ。さつらむの常のさつらむ。うち捨めたる休足ぬさつら
るは彼の声を洩す。夫婦のいさくさつら未つりあく。奥に誘引
ふと。さつらむらとも一室に入す。實主の坐をさつら。寒暖を述安否
を問ふ。林女婢茶をとり未き敷浪よとめ。又まよ進らせたり。そのと

羊六もさつらふよ對ひ。今日猛の仰るあり。汝をも召さるべけれど。頃のこと
うれはあつれよととさつらむらとさつらむ。さつらむらゆる豫るあつらふ。郎君
吉稚丸の眞弱ま病よさつら。さつらむらゆるいや十八九歳よりあつとも童
ぢらよさつらあつらむらとさつらむ。さつらむらゆる近曾。瘵症めたるさつら。且其龍
さつらむらゆるさつらむらとさつらむ。さつらむらゆる験をえんらとさつら。老臣談合し。か
る類ひも。猛り花の比よとさつら。進らせむ。さつらむらゆる隨に物見。山さつら進
さつらむらゆる功。鍼灸茶餅よ勝るべ。とせえあけらふ。大殿議をひひしてさつら
ハ階中よ格へ上せよとさつら。猛りもの用意あり。あつれども後者。鞍馬俣
あつらふ。人よさつらむらとさつらむ。さつらむらゆるとさつら。近臣只三人と定ら
さつらむらゆる。今市全八郎。布能蟬丸郎と。今一人の羊七也。老さつらむらゆる
むとあつれんらとさつら。物馴たる。壯役のをも擧せられ。さつらむらゆるさつらむらゆる

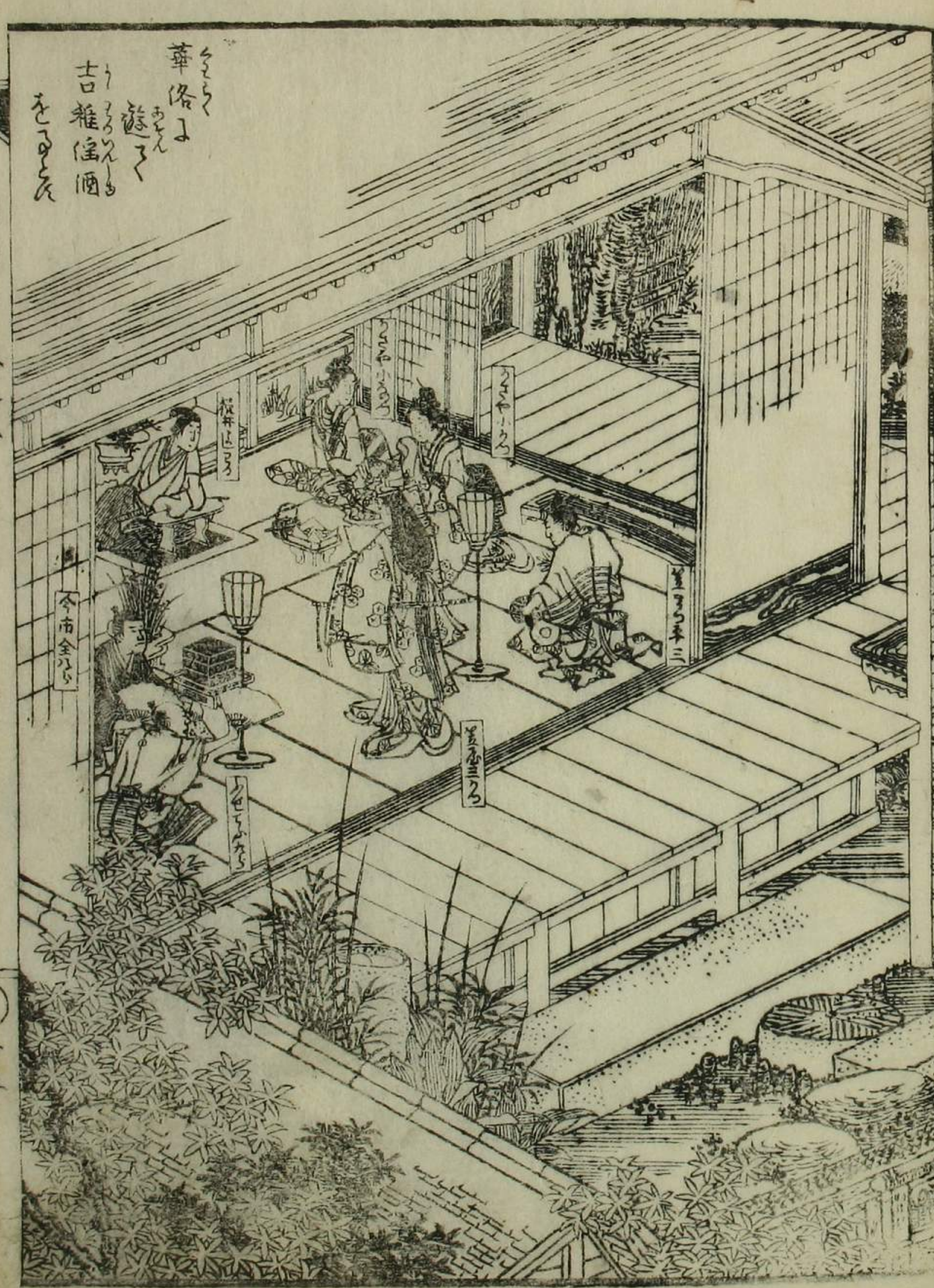


より持のりて并外よりそれごとく終日臥せしむるもあはれい父母のそれ
乃よす所竹られのり。さよぐか致場せども想より病もくくハ。醫師もせ
んじぶあく後よハ常のりとなりて一月ハ起。一月ハ外顔のほりも日よ
そひぬ是れいそあれたす七ハ。帝君を守傳す。洛よ上。洛東祗園の
社頭ある人の別業を購ひく。さよ僑居さ。進らと筑井家の帝君
あつめささりあり。近臣の名さ。隠し。何某彼某と稱し。日未大和
交加さる商人とさ。それをさるめありけ。かくて吉稚ハ。三人の近臣
をねく。下郎小橋をねら。訓龍をり。洛中洛外の神社佛閣名処
吉蹟を托覽し。むそれや。日をさる。病あ。果が持傳く云
くありて。生平よりも健く。又奈良より。日よ。飛御玉未。起居を尋向
と。どのと。園花ハ。病を推し。書翰の写め。果よ。乾乾す。のり。のり。

半七は贈り。又安浪も。女児が書翰よ。巻をえ。消息。衣服何れ。どの
の。父。ま。ま。ま。と直よ。さ。さ。さ。一。げえ。ま。一。ぬ。洛ハ。隣。の。園。な。れ。ど。旅
と。ふ。れ。ば。自。在。さ。り。さ。り。さ。り。あ。ほ。ろ。ろ。と。竹。頃。帰。る。あ。り。ん。女。児。ハ。日。敷。の。こ
僕。つ。そ。ろ。ろ。の。空。を。瞻。望。さ。り。つ。つ。つ。と。可。憐。よ。り。さ。り。さ。り。ま。せ。れ。
函陣の織物城殿の扇さ。と。贈。を。遣。し。さ。れ。が。報。さ。り。さ。り。先。有。り
倉二。帝。を。夫。と。典。指。が。児。子。蟻。松。曾。を。帝。と。互。代。は。洛。よ。上。ま。て。吉。稚。の。女
否。を。向。又。所。用。を。兼。さ。り。帰。り。さ。吉。稚。病。愈。て。の。後。ハ。さ。り。さ。り。を。半。七
よ。ら。ち。任。し。さ。請。来。る。と。も。稀。あ。り。さ。七。月。の。中。旬。に。至。り。さ。狂。よ
寒。熱。一。假。初。は。病。取。さ。り。さ。遂。は。瘧。疾。と。さ。り。さ。日。を。控。れ。も。始。起。さ。り。さ
も。あ。り。の。僑。居。よ。主。君。の。ほ。り。近。く。病。取。し。さ。あ。り。ん。ハ。畏。し。と。あ。り。さ。り。
今。市。布。は。相。詣。し。吉。稚。よ。さ。え。あ。げ。り。別。よ。五。條。さ。り。さ。り。さ。り。小。菰。を

借しその旨の一人の奴隷を借し。其処より引移して保良と。そのとれ今
 市布施ホ吉稚よ密諾さうとせり。まて七病煩ふうと。奈良一告ら
 せま。老臣ホむりさうと。別入をせり。彼代とるあべ。その人
 り。君の心さうよ稱ぬりのどもとせり。この風景を殺しぬらん。
 瘞病のたう三七日を限ると。愈と。つら。見く。このと。奈良一告ら
 ても。某ホ二人かくと。あれ。何の障りぬ。と。言。さうと。まて。吉稚
 む。さうと。終。その。奈良一告ら。まて。その。さう
 を。さう。小。れ。又。い。く。日。も。あ。う。愈。べ。れ。よ。告。び。と。父。も。妻。子。も。
 物を。と。ら。ぬ。よ。さう。と。ま。て。奈良一告ら。さう。と。ま。て。全。八。蝶。九。郎
 が。ま。よ。の。計。較。一。く。ま。君。よ。陰。酒。を。す。め。た。張。本。と。ま。り。より。さ。も。彼
 今。市。主。八。郎。布。袋。蝶。九。郎。の。兩。人。の。鏡。井。譜。代。の。郎。當。れ。と。も。その

む。ま。羊。七。と。の。う。げ。ま。か。り。く。實。よ。奈良。良。坂。の。兒。女。相。と。憎。べ。れ。傍。人
 あり。彼。ホ。上。よ。父。母。あり。下。よ。妻。子。と。あり。只。言。を。巧。う。と。君。を。欺。れ
 飽。を。媚。く。傷。難。と。と。あり。夫。信。言。の。美。言。を。美。言。の。信。言。を。宣
 あり。傍。言。の。耳。く。と。蜜。の。と。吉。稚。九。郎。年。少。軟。弱。の。公。子。と。ま。て
 され。を。思。ら。ど。彼。兩。人。を。寵。と。す。二。さ。れ。の。と。り。因。り。此。度。の。從。者。小
 も。擇。と。し。却。ま。て。を。り。び。ら。と。り。氣。と。さ。る。よ。ま。て。猛。と。ら。ら。む。五
 條。の。旅。宿。よ。退。れ。と。全。八。蝶。九。郎。の。隙。を。ぬ。く。吉。稚。よ。捉。奥。を
 す。め。の。あ。の。れ。く。か。身。の。樂。よ。と。刺。と。の。ころ。洛。よ。名。と。る。者。と。ま。て
 夏。が。女。見。の。小。夏。弟。子。の。三。勝。と。ん。ど。鞍。よ。び。集。合。と。す。昼。夜。酒。宴。と。す
 する。と。三。勝。の。花。の。中。の。花。と。す。ト。と。び。笑。べ。城。を。傾。る。の。美。人。あり
 され。が。多。美。人。形。完。容。の。い。う。の。妓。王。も。勝。る。べ。く。愁。を。含。む。と。す。と。れ

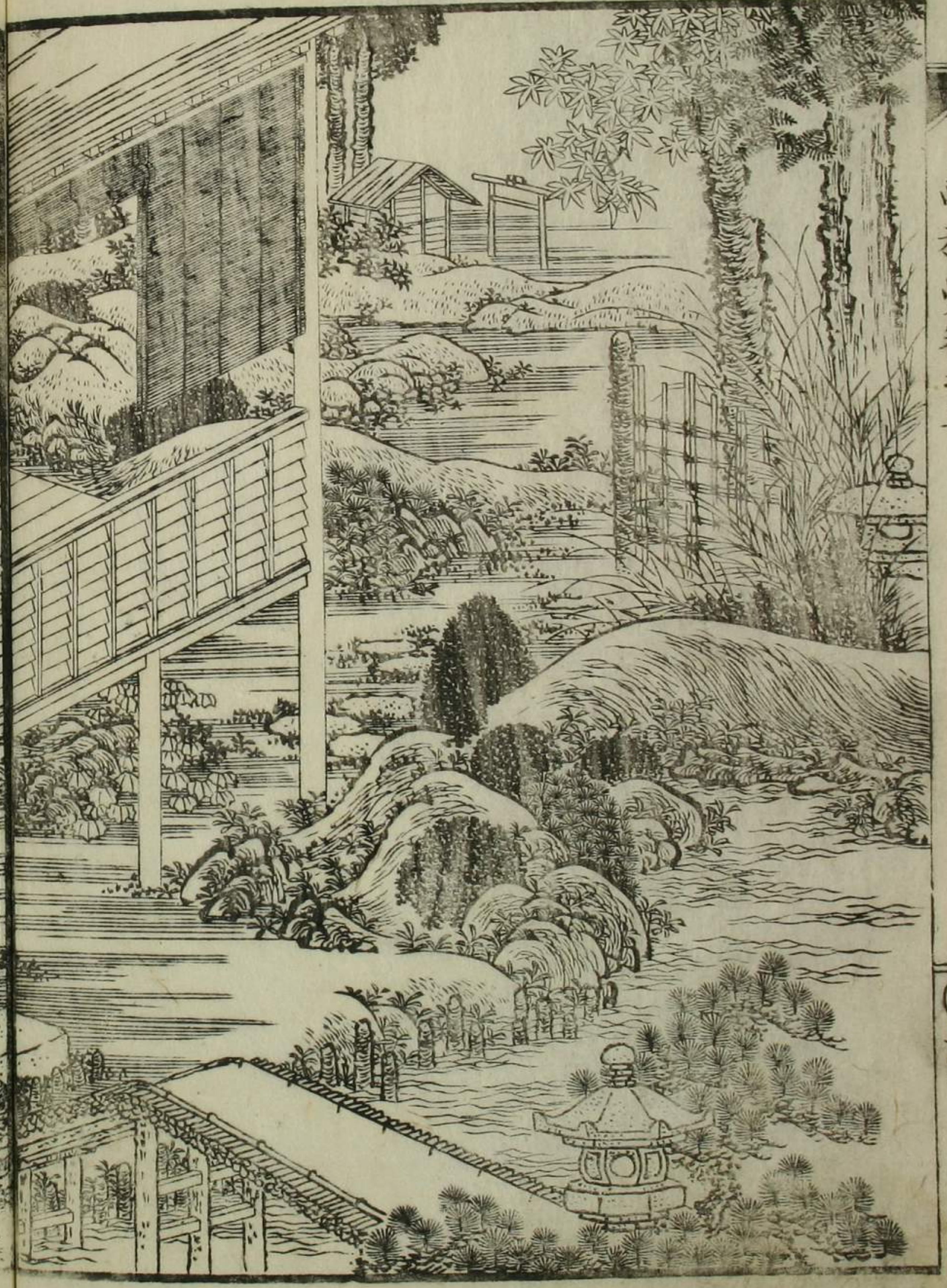


華洛子
古雅信酒
をりてん

今市全八

まきつり

まきつり



南村曼卷之三

十四

る。雨の偽裳。春の鳥の鳴かど。亦是故御を莫中の比田の鹿野父
を索うたりし。鎌入君の微妙とめども。それあけ不及と見え。一は士羅
溜。着る。と。あひ惑へる。気色。を全八蝶九昂とや。猜して。
言の叙。主君。私語。あめ。これら。媒つる。三務。應。三務
よ。その。を。い。は。く。一。と。二。三。勝。ハ。兼。く。こ。と。と。れ
結号。夫。又。遠。ぐ。ん。寡婦。と。果。あ。ん。と。あ。い。定。め。一。と。あ。れ。ば。財。多
人。も。麻。非。ぐ。又。凡。流。士。も。又。う。う。口。ぐ。と。と。く。金。銭。行。く。挑。之。威。勢
よ。乗。一。く。遍。の。人。の。席。へ。い。あ。び。来。た。ら。み。う。り。一。行。ふ。今。後。人。を。が。
主君。の。あ。い。情。を。述。る。を。す。く。う。ら。腹。と。一。言。の。意。も。あ。び。ど。その
席。の。果。も。あ。い。を。持。煩。一。と。い。ぬ。一。か。どの。後。り。も。ど。も。終。る。
来。ら。ぐ。全。八。蝶。九。昂。の。あ。い。は。違。ひ。く。口。ぐ。と。と。あ。り。れ。ど。彼。も。向。り

く。主君。の。翌。の。夜。あ。り。一。と。あ。り。一。つ。る。と。の。こ。ご。く。と。二。ス
密。す。よ。後。合。い。の。り。の。野。の。金。を。め。く。三。勝。を。身。を。贈。ふ。う。り。外。に
一。と。の。猛。典。據。が。方。一。書。簡。を。あ。り。用。金。の。う。を。い。遣。一。ね。嚮。い
半。七。が。五。條。は。退。れ。く。う。り。士。口。雅。の。在。真。よ。費。一。金。少。く。の。ゆ。え。ゆ。く
を。或。は。五。十。金。或。は。百。金。と。被。の。ゆ。い。ひ。う。ら。く。と。ぐ。と。奈。良。う。り。う。た
う。ら。く。よ。半。七。が。名。を。書。加。る。と。い。と。も。その。入。り。後。く。これ。を。あ。り。は。か。す。と。吉
雅。の。今。僑。居。一。く。う。ら。ぐ。寡。婦。一。と。い。と。も。え。と。米。門。の。名。ま。れ。は。金
銭。を。よ。い。と。い。と。い。と。ま。ぐ。り。二。人。の。血。臣。よ。掠。ら。れ。ぬ。を。詫。一。は。れ。ぐ。臣
後。よ。全。八。蝶。九。昂。の。既。よ。奈。良。一。金。の。も。い。つ。り。う。ら。ぐ。三。務。が。親。を
あ。ひ。く。縁。由。を。あ。り。と。ん。と。平。二。が。一。人。を。つ。り。う。ら。れ。ど。未。だ。な。ね。ハ
二。人。ハ。六。は。焦。燥。う。ら。連。ら。ら。て。二。條。竹。魚。う。ら。美。松。が。死。よ。到。き。全。八。昂

今彼を身贖し。その用る時よきにあり。夫が妻と申すは。今迄に
 へおろしむるが。その用る時よきにあり。夫が妻と申すは。今迄に
 が。その用る時よきにあり。夫が妻と申すは。今迄に
 たる用金。よき。その懐へ挟み。故り。あ。と。途。中。あ。ど。埋。伏
 へ。彼。女。子。が。奪。ひ。さ。う。ん。誰。う。か。の。爪。を。と。ろ。う。ん。あ。う。れ。ば。身
 價。を。さ。う。さ。る。ふ。及。び。よ。や。平。三。ら。れ。を。焼。け。ろ。女。児。を。さ。り。復。さん。と
 圓。と。も。這。奴。を。知。引。出。す。撃。殺。え。ん。か。り。と。易。と。信。づ。ち。密。語
 ぬ。蝶。太。郎。ち。よ。教。び。と。一。張。あ。も。及。び。か。ま。ら。れ。の。黄。金。を。ね。り。返。し
 又。英。人。と。得。ん。し。づ。ま。も。考。て。辨。り。し。の。謀。策。を。妙。く。し。し。浩。平。よ
 走。率。め。た。ら。男。忙。し。き。り。あ。く。平。三。が。家。よ。呼。門。め。且。の。管。領。暗。え
 朝。臣。の。お。ん。使。り。今。夜。猛。ま。實。の。来。を。せ。る。あり。し。う。ろ。く。三。捕。と。召。せ。し

宣はとるとぞ。黄昏るる頃。迎の轎を来とて。其の准備し。む。之と
 り。果。と。又。忙。し。き。り。あ。く。平。三。が。家。よ。呼。門。め。且。の。管。領。暗。え
 出。矢。度。に。彼。男。が。頂。髪。と。搔。廻。す。し。之。を。平。三。が。家。よ。呼。門。め。且。の。管。領。暗。え
 い。は。せ。る。あ。く。平。三。が。家。よ。呼。門。め。且。の。管。領。暗。え
 忽。地。に。息。絶。す。り。その。と。を。蝶。太。郎。も。さ。り。知。り。彼。男。が。衣。服。袴。を
 剥。と。り。二。人。と。く。し。し。屍。を。ほ。り。近。に。叢。の。中。に。投。入。せ。り。あ。く。平。三。が。家。よ。呼。門。め。且。の。管。領。暗。え
 後。を。さ。り。あ。く。平。三。が。家。よ。呼。門。め。且。の。管。領。暗。え
 と。く。三。捕。が。子。舎。に。あり。往。來。の。人。之。を。遮。断。す。折。る。れ。ば。あ。く。平。三。が。家。よ。呼。門。め。且。の。管。領。暗。え
 あ。く。平。三。が。家。よ。呼。門。め。且。の。管。領。暗。え

夜轎の驟雨

さても赤根半七。五條の旅宿より。病と三十日あり。頃日

全八爆九郎が。序君は托奥をとりめあり。野の辨子と並び集合
 ろし。彼が作する。大に驚かす。これを諫人とする。氣力あるところ。起居
 ともよまた。うらやま。頼みもの。魚燥つ。うらやま。小日をよせ。八月の
 中旬に至る。や。おこし。果ね。翌日つとめ。髪を梳く。祇園の旅
 館より。その為。体とえ。や。その准。休。心。ス。大和
 へ音耗をせ。れば。その。旦奴。隷を。奈良。へ。つ。ハ。び。い。く
 へ。紫。敵も。宿の。後。れ。堪。ど。い。末。亦。い。ふ。を。よ。ひ。つ。い。て。
 ぶ。圖。柱。に。懸。る。護。身。囊。を。え。る。の。む。し。り。や。う。え。ん。か
 護。身。符。を。り。ひ。む。母。の。ば。ま。あ。り。か。護。身。囊。と。送。代。を。あ。つ。る。の。
 あり。か。これ。も。愛。し。似。し。り。の。と。は。母。の。宜。い。一。汝。が。成長。の。後。俗。へ。上。る。
 る。あ。い。バ。あ。さん。か。母。を。索。ふ。と。夢。え。ぬ。い。一。之。の。紫。入。る。厚。厚。底。よ。後

れども。母のえ。在。た。の。近。属。俗。の。あ。ら。う。回。り。も。う。を
 その人。れ。そ。も。の。愛。あり。や。や。や。紀念。を。今。代。に。え。る。あ。り。の。忘。り。
 隙。も。あり。ま。ん。の。を。え。雅。が。う。ん。か。護。身。囊。と。と。や。い。う。ま
 い。か。う。も。頂。又。應。る。物。も。あ。り。外。面。は。咳。し。く。ま。り。人。あり。る。
 今の。野。の。辨。子。の。病。は。一。度。は。野。袴。の。裾。あ。り。文。香。の。玉。を。持
 一。法。利。戸。と。押。切。り。た。つ。笠。を。授。け。る。を。え。ん。が。ん。別。人。の。あ。ら。う。が。
 厚。倉。二。郎。大。夫。友。春。も。り。か。が。半。七。ハ。端。ち。う。ち。出。迎。へ。る。厚。倉。氏。何
 め。の。の。り。か。坊。あ。ら。う。ん。が。う。ら。ま。り。上。座。に。結。ぶ。ん。が。厚。倉。氏。
 ひ。し。う。し。り。や。う。其。許。の。病。は。一。度。は。野。袴。の。裾。あ。り。文。香。の。玉。を。持
 今。代。に。平。愈。し。の。り。あ。ら。う。ん。と。い。ふ。ま。七。答。さ。某。り。ね。る。月。は。う。り。
 癩。病。あ。ら。う。起。居。る。自。在。な。ら。う。と。君。の。ほ。ろ。ち。う。ち。臥。し。て。あ。ら。う。



相討
厚倉
訪と
羊七を

厚倉源次郎

羊七

南丸巻之三

六

ふれい 事これと云ひて、その暇は退いた聖の愈んあさく人おさう果んうとら。
宿者へも言えあげど父も告ぐて。さひの外は日をさきうが。行人は
父のひる。つと不審なことゆい。そのとら厚倉声と低り。友春がその
つと。さうなるあ故あり。近曾吉推君用金の。近臣三人の連署と
らへて。あぶぐすまさを大殿う。怪くゆひ。某を召し。は密
は格不到りて。そののる伴とんて。未あつて。仰せらる。ゆるる月下旬
う。その地はあつて。そらぐ。退田一。全八蝶九。身がさめゆよと。
郎君のおん行迹。うと。毎日。穀の舞くを。三務とや。ん
が身と贖ひ。られ。灰。妻よせん。それと。まの。入。穀の金を進
さぶさう。例の。連署。大。移。到。来。せり。匿。と。し。れ。ど。あ。は。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。ろ。
これ。う。り。ま。え。よ。大。殿。へ。は。え。あ。げ。ら。る。り。の。や。あ。り。ん。ん。ん。憤。ぬ。う。り。て。昨。夜

猛よ二郎 考夫を召さん。頃日汝も。吉推が。う。灰。搜。向。せ。る。よ。坐。し。ぬ。る。
はらう。ゆ。と。じ。既。は。彼。の。の。が。淫。楽。放。蕩。世。は。わ。り。と。ろ。う。ら。審。又。説。ら。る。
あ。及。ぶ。ど。あ。る。り。室。町。家。う。り。制。度。あ。り。が。家。門。の。滅。亡。踵。を。め。て。
金。う。い。び。汝。り。を。だ。格。よ。ま。ゆ。ま。く。吉。推。主。役。と。わ。り。と。未。あ。つ。て。れ。ま。づ。ら。
首。を。切。ら。う。と。す。後。の。禍。を。攘。あ。べ。と。宣。ひ。い。に。氣。を。あ。ど。ら。く。あ。り。ひ。
え。い。の。う。べ。う。も。あ。る。ね。が。畏。く。あ。ら。ま。う。ま。良。を。う。ら。目。今。ら。ま。あ。る。こ。
ころ。よ。う。ろ。う。病。臥。し。る。と。も。つ。づ。ら。う。と。さ。る。う。あ。ん。や。と。い。ふ。中。せ。い。
あ。り。と。ち。と。お。ら。あ。ら。う。う。ら。は。い。ま。づ。れ。と。こ。と。あ。い。沈。吟。ま。り。や。う。郎。君。の
お。ん。行。跡。う。ろ。う。ろ。う。さ。る。う。り。の。借。つ。き。あ。づ。ら。い。病。は。犯。さ。れ。る。凍。ま。る。と
を。ぬ。ど。を。づ。ろ。く。ゆ。ひ。が。用。金。の。う。よ。于。て。某。結。く。れ。を。あ。づ。ら。い。と。て。
今。市。布。旋。の。傳。入。君。は。酒。と。さ。め。ま。る。う。の。う。あ。づ。ら。い。ん。ん。ん。連。係。

不忠の隙は入る致彼憎しおそしむ。歯を切ら憤る。厚倉の
 さみり。其許の姓名を載せるといふ。件の連署一紙も。比辺の自
 と見えねば。ひらくは據あるべし。只ひらと見がさる。郎君の
 これを救ひえたるせん。忠臣の誠度よかる。若肉の計をさ
 へひらるるぞ惜る。せんさへありき。その人をほごころへ。ま
 せもめくど膝をすけぬ。そのひらある謀もく。其身を救
 代りあるべし。そやく説きしむ。もろくといそがせ。厚倉
 余とうち笑す。比辺の志又よ勝り。忠を二する。そのれ
 ちがぬ。実の胸中の苦計を告ぐ。そのみんせんとす。ま
 さらり。その身。忠臣の汚名を厭ひ。その謀をねい。かく
 る。ひらより。その後ひらむべし。と問ふ。ま七答。ひらる
 謀もく。ねい

かん恨をさふ。よは負ふ。君を救ひ。不忠ともり。不忠ともり。厚
 へ打忠る。と。そよ勇む。日本さ。いふ。厚倉頼。嘆賞。と。り
 今宵い。あも。三勝とや。人を奪ひ。いづ地へ。も立退
 うれい。又夜の中。郎君の。供。茶良。殿。と。さん
 彼縁故を。孔明。吉推君の。名。さ。あ。と。ま
 七が私情。起。三勝。舞。惑。推君。假社人
 較計。が。既。の。伎倆。覚。い。い。言。語。猛。件。舞。を
 ぬ。逐電。せ。か。證。据。分。明。一。旦。の。人。憤。を。散。れ。比。比。私。憤
 ぶ。公。私。の。幸。甚。一。う。さん。と。よう。さん。と。ら。は。巷。街。説。忍。地
 その趣を。更。希。君。の。人。悪。名。を。雪。君。を。り。形。迹。を。慎
 む。ひ。君。家。泰。山。の。せ。と。え。至。人。の。い。比。比。孤。忠。あり。今。と

あれ年と経る。その便宜をえあり。此辺の忠義の二帝を夫が命下まつて
 其のえあげ。めぐる。ぬきさう。えん。ごう。ゆめ。と。説。ふ。せ。ば。あ。る
 く感激し。その謀は易し。只うけがさた。彼を奪ふ。一日く
 とも。こ。つ。は。住。ま。ず。真。の。不。義。は。似。く。儼。ら。う。ん。是。大。夫。の。せ。う。不。救。
 不。使。う。が。う。い。教。し。それ又逢ふ。地をま。自。殺。せ。ば。後。の。患。の。大。
 皆。を。忠。義。の。為。め。あ。れ。ど。罪。多。き。女。子。に。教。し。て。命。下。を。捐。う。ん。彼
 女子の親族も。恨る。う。と。が。あ。る。ぞ。い。ひ。も。果。ね。よ。厚。倉。の。改。を。右
 ふうら。掉。り。赤。根。氏。の。言。違。へ。り。彼。も。又。人。の。子。を。さ。う。む。ん。の。教。を
 べ。ふ。ぞ。め。く。れ。それ。は。倭。外。に。不。便。を。え。え。く。命。下。と。も。の。ろ。と。も。ふ
 世。を。渡。り。あ。る。あ。八。頭。志。う。ぬ。三。勝。親。子。を。引。放。憂。を。え。ん。罪。障。を
 贖。ん。と。そ。そ。士。の。不。為。あ。れ。又。方。便。を。め。う。て。彼。が。身。價。を。外

あ。ぐ。く。卒。三。と。申。う。ん。よ。と。う。と。と。一。血。氣。よ。乗。り。く。人。を。教。し。牙。を
 失。ひ。あ。ふ。み。と。理。を。述。う。ら。む。と。も。ま。七。を。う。け。引。む。い。じ
 と。ん。せ。ひ。い。が。ぶ。う。よ。至。く。己。と。成。る。む。む。ら。し。昔。が。う。を。ま
 う。さ。ら。と。と。察。し。ぬ。果。推。う。り。時。結。号。さ。う。女。子。あ。り。その
 名。を。ば。あ。う。ん。と。め。び。う。う。が。又。あ。の。再。生。の。恩。あ。り。の。不。幸。す。い
 九。支。の。久。ゆ。へ。と。う。と。ど。あ。り。一。う。り。今。よ。存。亡。定。う。あ。う。と。これ
 近。曾。園。花。を。娶。り。し。み。え。来。う。が。情。愿。よ。あ。う。と。あ。う。と。又。よ
 暈。ら。ま。く。その。命。下。の。情。愿。を。彼。園。花。を。娶。ら。う。と。う。と。い。と。い。と
 枕。席。を。共。よ。せ。む。と。い。え。ん。が。恩。を。あ。り。し。あ。り。ま。う。と。今
 葬。り。の。三。勝。と。や。う。ん。を。伴。う。所。謂。五。十。歳。百。歳。の。う。と。う。の。條。の。ゆ
 あ。う。う。と。う。年。の。志。が。轉。ぶ。さ。あ。う。と。と。一。生。の。ゆ。り。い。い

めとあほされ。若ていりて便うん。又す六が久後を。うたよお
なる。とまを膝よ。並忠孝を。神も仏も憐れ。端あり。喜ひを。う
のり。三勝ハ。結号。せ。あさん。こと。あひも。うけ。ひ。せ。だ。数人。といふ。あう。れ
く。厚倉。を。縁故。を。け。く。ハ。練ん。や。う。も。あ。く。比。掃。る。壯。士。濡。衣
を。被。せ。命。を。入。隅。さ。さ。る。う。と。を。う。う。湯。う。う。う。て。り。入。て。は。秋。の
暑。の。短。く。鶏。も。堀。入。相。の。祇。園。精。舎。の。鐘。の。声。を。う。り。耳。も
あ。ら。な。り。既。ハ。時。刻。ふ。り。ぬ。と。く。厚。倉。を。う。り。坐。を。ま。つ。ま。せ。を
え。り。う。う。と。れ。い。や。退。る。こ。ま。う。と。ま。む。あ。ら。ね。ど。も。捷。り。う。る
損。ト。あ。ふ。ま。と。り。く。が。ま。せ。覚。然。と。し。く。を。易。く。ち。ひ。あ。へ。甲。夜。り
披。衣。を。裊。徊。し。潜。り。う。う。奪。ん。ま。り。の。一。家。よ。あ。く。と。は。う。べ。る
陣。中。よ。埋。込。り。う。う。と。の。夜。を。う。づ。う。あ。う。い。せ。と。ハ。回。暮。ハ

月の天の定やう。ま。う。ハ。曇。る。雨。催。ひ。あ。ぶ。た。月。の。出。や。ね。ど。容。と。主
が。影。ニ。ツ。磨。り。げ。る。武。士。の。と。れ。や。鏡。と。い。ひ。つ。べ。い。日。今。市。全。八。郎
布。袷。蝶。九。郎。ハ。既。ハ。謀。を。定。め。る。管。領。家。の。支。卒。を。緘。止。し。直。よ
と。の。不。を。ま。り。ま。り。う。日。来。総。り。う。於。呂。世。の。精。夫。足。子。脚。卒。と
り。悪。棍。よ。金。を。よ。く。と。れ。を。相。殺。ひ。日。の。暮。う。と。ま。う。う。蝶。九。郎
ハ。利。と。り。衣。服。袴。を。被。き。件。の。支。卒。よ。打。拵。二。人。の。悪。棍。ハ。橋。を
約。し。し。く。ま。松。が。家。よ。到。り。管。領。家。の。迎。あり。と。く。く。ま。う。う。く
り。と。の。と。を。卒。三。ハ。真。葛。原。よ。越。る。う。ま。ど。ぬ。り。あ。ら。ね。ど。か。ん。こ
ま。あ。ん。か。う。り。迎。の。橋。さ。あ。う。う。を。う。り。ま。ぐ。う。村。ま。ぐ。う。又。の
あ。う。あ。う。新。も。あ。う。ト。う。三。勝。ハ。夕。同。暮。の。を。好。し。う。蝶。九。郎
く。も。あ。う。ど。會。釈。志。く。外。面。よ。立。出。門。の。戸。鎖。し。く。鍵。ま。が。隣。ま。る



今日市布施
夜三掃を
豪家集す

布施謀九節

今日全節



市根羊七

應永十五年
十月十日

市根羊七

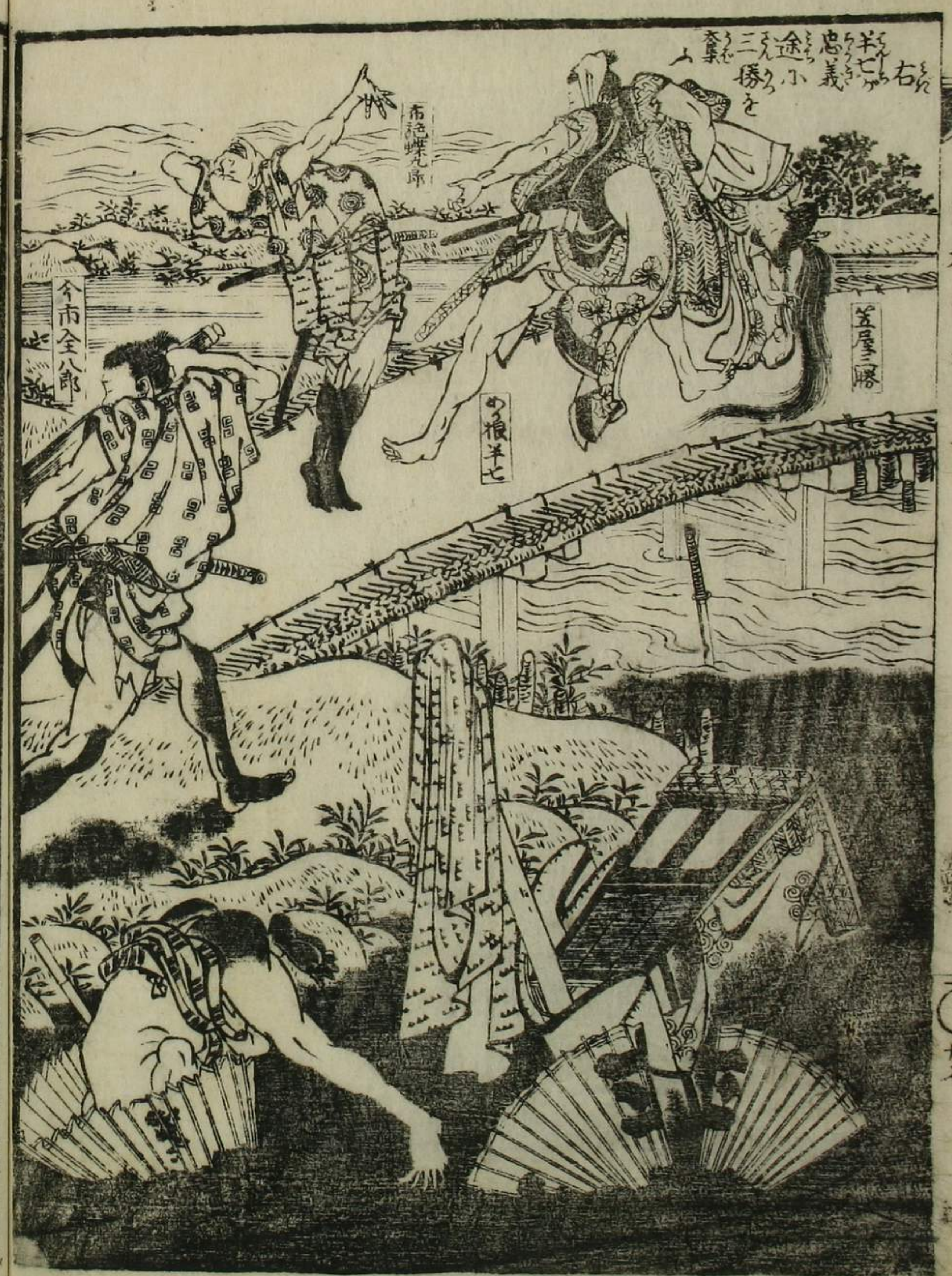
市根羊七

家よりくゆた。如此くゆく来るる。今午もあはれと父の久りゆら。
 舞の衣裳の跡くゆりゆりゆらゆらぬ。と告げゆひてよ。と挑めを
 懸く橋よ棄捨るを。後日あしどど足平脚平。りう肩入して
 搦ゆ。只み信しくまきまき。九郎の嚮より物蔭よ立寄
 する。全八と面をあり。徒伴し。と私語あひ。橋よ引きまき
 折し。半七の中三務が家を尋當とえまき門の鎖し。り。
 隣はる家よ立ゆり。それがゆきぬる方を向べ。主人東の河原
 を指し。幾多の三務の目今人よ招き。ゆきまき。り。
 のれえり。彼所へゆく挑灯をも。彼が来る橋ゆれ。とばもあ
 ぶ。半七倍とえり。それやつい。とゆひゆき。飛がまき。追
 懸り。あしるる。幾平三日の日管領のま車がゆり。後猛よ

真葛が糸あくるべりゆまき。申下村。其処よ妙れ。あひのほり
 時をとんち。移し。今いそや。三務が着た家へまき。比及まき。り。
 只顧よころ焦燥き。るるを喘ぐ。三条河原と走りぬる。河原
 を東へいそがする橋の内より。半垂るる振袖を挑灯の火光よえれば。拍子
 六の字の物篇して。紛あまき。あまき。三務あり。あまき。不審。ころりゆら。
 轎夫とまかぬ体も。竹とやん性ゆら。引添るる走車ハ。昼入。衣服
 を袖ゆれ。その人よあまき。今一人。まき。面を曇るる武士ハ。向まき。
 券が身代償んと。まき。まき。あまき。あまき。あまき。あまき。あまき。あまき。
 廻り。二あまき。三あまき。押戻し。あまき。あまき。あまき。あまき。あまき。あまき。
 四人あまき。あまき。あまき。あまき。あまき。あまき。あまき。あまき。あまき。あまき。
 さま。あまき。あまき。あまき。あまき。あまき。あまき。あまき。あまき。あまき。あまき。

一歩も運ばず管領へ召さるる。路こそ違ふらん。しを御守
 りとてべしとのむもあへど。取しる持端引めうて。蝶九郎ホ大は奴
 こゝ過言あり。狼藉。這奴息の根。とめうと。廻る。轎夫とも。轎打
 展。打さるる息杖を。予三内。とりの溜る。右と左へ打ちか。つこ
 入り。足平が。息杖を。棄集ひとり。諸膝。雄。小溝。撲
 と打倒し。這あがらんとするところを。打杖。眉。回。四。打割
 泥。塗。足。踏。脚。平。胸。突。破。れ。呀
 と叫ぶ。什。種。今。市。駭。声。も。う。び。抜。打。切。ら。ん。と。す
 る。刃。の。光。予。二。身。及。息。杖。受。追。入。り。欲。む
 折。り。降。来。る。腰。雨。蹴。揚。の。泥。飛。落。紫。の。と。も。烈。火。を。刀
 風。り。蝶。九。郎。の。隙。に。橋。の。藁。揺。揚。る。三。勝。を。引。出。し。手。杖。を

けり。と。を。有。引。け。逃。ん。と。す。ま。り。ま。せ。も。ま。り。三。勝。を。さ。の
 知。追。葛。末。り。岸。の。柳。本。か。れ。る。の。容。子。の。う。ら。ま。り
 つ。吐。息。と。急。跳。玉。お。く。べ。前。ま。り。ける。蝶。九。郎。の。ひ。も。あ。り
 せ。せ。り。遮。留。られ。る。の。中。大。は。眺。眺。と。も。脱。下。と。い。う。が
 己。を。ゆ。三。勝。を。う。ら。捨。る。打。さ。る。刃。の。下。へ。ま。せ。七。握。固
 春。と。下。と。衝。お。さ。る。れ。う。膝。を。う。り。打。し。眼。瞠。と。り。刀。と。捨。る
 居。と。撞。と。倒。る。を。羊。七。の。へ。も。せ。ん。筋。の。も。も。二。勝。を。腋。下。に
 楚。と。抱。け。何。色。に。添。る。走。ま。り。予。三。も。全。八。も。ら。の。景。迹。は。勢。ひ
 脱。送。は。呆。れ。り。打。も。あ。り。双。方。一。度。よ。り。ま。れ。久。世。疾。風。と。呼。ぶ。ひ
 只。つ。づ。よ。蝶。九。郎。が。耳。よ。り。り。ん。身。か。ひ。一。起。あ。り。仇。も。身。も
 玉。録。の。路。へ。の。暗。ければ。彼。此。を。索。め。ぐ。ま。り。も。も。も。の



人々をえんとすむ。ぬ。

白木庵

〇廿八

三七全傳南柯夢卷之三終

